

平成29年度 第1回山田町総合教育会議 会議録

- 開催日時 開会 平成29年10月5日（木） 午後3時00分
 閉会 平成29年10月5日（木） 午後4時00分

- 開催場所 山田町役場 4階特別応接室

- 出席者 佐藤 信 逸 町長
 佐々木 茂 人 教育長
 山崎 喜 六 教育委員
 長崎 千 秋 教育委員
 小野寺 恵 美 教育委員

- 欠席者 中村 敏彦 教育委員

[事務局]

佐々木総務課長（オブザーバー）

箱山教育次長兼学校教育課長、白土生涯学習課長、田畑学校教育課長補佐

- 傍聴者 なし

- 内 容 次のとおり

1 開会（田畑学校教育課課長補佐）

2 町長あいさつ

教育委員の皆様方には、常日頃から子どもたちのために教育行政にご理解を賜っていることに対し、御礼を申し上げたいと思っております。子どもたちに関係する施設も出来つつあり、昨年7月にはふれあいセンター「はびね」ができ、9月30日現在で66,000人程の入館者があり、1日平均約200人の方々が利用しており、非常に良い傾向だと思っております。鯨と海の科学館も今年7月にオープンし、先日10,000人を突破しました。総合運動公園ラグビー・サッカー場は、人工芝の新設工事をしており、このようなことが、子どもたちの学力、体力の向上に少しでも寄与すれば良いと思っております。また、給食センターについては、32年度に給食が提供できるよう、今年度は詳細設計を実施しています。また、学校規模等適正化検討委員会を組織し、学識経験者を含め委員の方々からご意見を賜ろうと思っております。それもこれも、子どもたちの学力、体力の向上に繋がればと思っておりますので、本日は、忌憚のない話し合いができればと思っておりますので、よろしくお願いします。

3 教育長あいさつ

この会議は、重点的に課題と施策等について、協議、調整するものであります。今日の協議事項とすれば、学校調査の結果について、働き方改革についてとあります。町長

と教育委員会の両者が教育の政策の方向性を共有しながら進めていければ、山田町の教育はさらに良くなっていくと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 協議事項（座長：佐藤町長）

（１）平成 29 年度学校調査結果について

[佐藤町長]

事務局説明をお願いします。（資料説明：箱山教育次長）

[町長]

委員の方々からご質問等あればどうぞ。

[小野寺委員]

P29 数学の中学 3 年生、まったくわからない（17 人）、あまりわからない（41 人）だが、去年はあまりわからない（15 人）であり、わからない生徒が多いように思う。昨年、2 年生の時より増えているようだ。

[町長]

今、小野寺委員から中学 3 年生の数学の部分について、昨年度よりわからない生徒が増えているということだが、昨年度もそのような傾向があるようだ。先ほどの次長の説明によると、分からないことが積み重なってという話もあったが、その他考えられることはあるのだろうか。

[小野寺委員]

P10 家の人とゲーム端末や携帯電話等の使用についてきまりを決め、きまりを守って使用しているか。というところで、きまりを決めていないという小学 3 年生は昨年度 21 人であったが、今年度は 34 人と増えており、好きなようにやっているように思える。それに伴い勉強時間も減っているように感じる。小学 3 年生で 1 日に 4 時間以上使用している児童もいてびっくりする。中学 3 年生でも 22 人もいる。

[町長]

中学 3 年生の家庭学習時間の約 5 割が 1～2 時間である。調査した時期が中総体等の大会を控えた時期であったということだが、調査時期は前回と同じであるか。

[箱山次長]

昨年度もほぼ同じ時期であります。

気になるのが、仮設住宅が減ってきている中で、切り替えができていのか。生活スタイルが変わっていく中、子どもたちが前向きに取り組めるような仕組みが、家庭を含めてできているのか探りを入れたいところである。

[町長]

仮設から災害公営等に移った児童生徒が、必ずしもプラスの方向に働いていないということか。

[次長]

そこは何とも言えないところです。切り替えがしっかり良くなった数値がまだないということです。

[長崎委員]

まだ仮設から通学している子どもたちは多いのですか。

[次長]

5 月末の数字であるが、中学校で 25 人（6.5%）、小学校で 69 人（11%）です。

[町長]

当初仮設には約 4,500 人入っていたが、9 月末で約 1,300 人になっている。30 年度までには、災害公営住宅も全て完成する予定であり、30 年度あたりには解消できるものと思っています。

[山崎委員]

どの数値も、昔と同じ傾向であり、何も変わっていないように感じます。算数は小学校の時は良いが、中学校では数学や英語が落ちる。これが何なのか。基本問題は良いが応用問題が弱く、これも昔から同じ傾向である。全国でも秋田県は学力が高く、多くの方々が視察に行く。私も行ってきたが、山田町でやっている授業との違いが発見できなかった。同じようにやっていた。

山田町には、スポーツ施設はあるが文化施設はよその町村と比べると欠落している。「はぴね」が軌道に乗っている感じですが、大迫などには博物館などがあり、そのような施設が山田には欠落している。やはり、このようなことが長い時間をかけると町全体のレベルを上げるのに響いているのではないかと私は思っています。

[町長]

山崎委員がおっしゃっている民度というか・・・。

[山崎委員]

土台づくりが必要であり、学校で先生方だけ頑張っても、そんなに上がるものではないと思うんです。今後、文化施設を一つでも増やしていくことが必要なのではないかと思います。社会全体をレベルアップする努力が大事なのではないかとと思っています。

[町長]

山崎委員から民度を上げるには図書館が必要という中で「はぴね」が開館し、内容も充実させながら底上げができる施設になればと思っています。

[山崎委員]

この調査結果は共通理解ということですね。

[事務局]

そのとおりです。

[町長]

それでは、(1) 平成 29 年度学校調査結果については、よろしいでしょうか。

[構成員]

「はい」という声あり。

(2) 学校における働き方改革について

[町長]

事務局説明をお願いします。

[次長]

学校の働き方について、提言が出されております。教員は、子どものためには時間を惜しんでやるものと思っておりましたが、難しい事態とか問題等に発展していくケースが出てきています。先生方の働き方の見直しをしなければならない時にきています。学校調査の結果からも見えてくるものがたくさんあるのではないかとと思っています。家庭の役割であったりとか、行政の役割であったりとか考えてやらなければならないと。本町の先生方の時間外は、月平均小学校で 35 時間、中学校で 51 時間、平均 38 時間となり

ます。全国的には、大体 40 時間をボーダーラインとしているようです。80 時間や 100 時間超えると必要に応じて産業医の面接指導も行わなければなりません。町内でも 80 時間、100 時間を超える方が数名いるというのが現状です。

[町長]

難しい問題ではありますが、先生方で病気等で休んでいる方はおりますか。

[次長]

心の病気で休んでいる方はありません。

[町長]

抜本的に変えなくては難しい問題であろうと思います。部活動の在り方など。

[山崎委員]

教員は時間で切れる職場ではなく、簡単に年休も取れない。具体的に教員をどれくらい増員するかという提言ではわかるが。このままでは、時間外は減りません。提言は、現場とかけ離れているようで伝わらない。

[町長]

先生方の採用枠を増やすという話もあったようですが、具体的な対策はどうなんでしょう。

[次長]

全国で何人増やすという話があっても、では山田でどれくらい増えるかというのは分かりません。ただ、町としては学校支援員を昨年度 1 名増員して、何とか先生方が子どもたちに向き合う時間をとれるよう取り組んでいるところではあるが、こうした現状の中でどう考えるか、それでも大変だということが話し合われれば、次の方策も見えてくるのかなという思いもあって出しているところありました。

[山崎委員]

支援員を増やすなどしなければならない。教育長の腕のみせどころである。

[町長]

働き方改革は、非常に深い問題であり、再認識されたということでもあります。

これについては、よろしいでしょうか。

[構成員]

「はい」という声あり。

(3) その他

[町長]

直接皆様方とお話しすることが総合教育会議ですので、ご意見ご質問等なんでも構いませんので、いただければと思います。

文化施設については、「はびね」の様子をもう少しみたいと思います。書架等がまだ空いている状況ですので、その辺の所も充実させていかなければならないと思っています。

[長崎委員]

小学校の校庭の仮設住宅は、すべて撤去されたのでしょうか。

[次長]

小学校 3 校に仮設住宅がありまして、織笠小学校は完全に撤去されました。南小学校は退去が終了し、県において撤去作業等の入札業務が進められているところです。大沢小学校は若干遅れているという状況です。

[町長]

町民グラウンドはどうでしょうか。

[次長]

先日、住民説明会があったように、最後の団地の工事が遅れており、そこに入居する予定の方々が出るのが遅れる見通しであるというところまでは確認しておりました。

[町長]

給食センター建設への影響はどうか。

[次長]

影響が出ないよう関係機関と協議しているところです。

[町長]

教育長から何かございませんか。

[佐々木教育長]

学校調査と働き方対策ということで、山崎委員からはずっと変わらないということでしたが、変わらないことも含めて、先生方の働き方も合わせて、やはり今までどおりでは同じような傾向が続いていくだろうと。そういう認識をもって次からの政策等に反映させていくことが求められているのではないかと。ということをご共有を図って進めていければいいかなと思っております。

[町長]

その他何かございませんか。

[山崎委員]

前回も話をしましたが、山田に住みたいくなるような町づくり、魅力ある町づくりの策は何なのか。町長さんのお考えを伺いたい。

[町長]

どこの市町村においても永遠の課題であると思います。

総合計画にもあるように、2040年には人口が11,000人になると見込まれておりますが、本町では、12,000人にしようとしております。全国どこでもそのような傾向が続くと。岩手県において人口が増えているところはございません。あえて言えば、矢巾町や紫波町などは同水準であるが盛岡市でも減ってきている。そこで、町として人口減少の歯止めになる基本は、6年半前に被災した町を、今までよりも安心安全な町に早く取り戻すような町づくりを完成させることが一義的に人口対策とすれば必要だと思っております。そののみならず、町で考えていることがありまして、やはり海に頼っているだけではなかなか難しい漁業環境にあります。魚が集まってこない中において、先進国においては養殖漁業ということが増えてきている。海上養殖のみならず、陸上養殖等の研究を進めておりまして、ぜひそのようなものが実現できれば良いと考えております。あとは、インバウンドの東北に来る人数というのは、日本全体で1%であり山田町はもっと少なくなります。交流人口というものにもやはり陽を当てなくてはならない。そこで、今考えているものが、大島を夏場のみならず光を当てることができないものかと研究しているところであります。また、三陸自動車道が開通すれば東北自動車道と違い無料であり、雪害も少ないという中で、三陸道を通る車をどのようにして本町に寄っていただくか研究をしております。例えば、前山田病院の施設の利用も含めて考えていかなければなりません。山田町にしかないようなものを町づくりとは別に発信していこうと復興企画課を中心として研究しているところです。

[山崎委員]

町長さんが話したように、子どもたちも山田の町は地理的にも自然環境も良いなと植えつけるには、やはり町民歌ですよ。教育委員会では、各学校でもやるように仕掛けられているようですが、喜寿を祝う会でも町民歌を歌ったらいいいのではないかと私は思いました。

[町長]

町民歌については、昨年も先生の方から一番良い方法だと。町民歌について、事務局経緯を説明してみてください。

[次長]

町の人が集まったら、誰でも口ずさめるところに挑戦したいということで、来月行われる音楽発表会で町民歌を歌うことにしました。これから、卒業式や入学式でも積極的に取り入れてほしいということで、愛着を高めたいということで動きが始まったところであります。

[町長]

時間等の調整がつけば、新年交賀会でも考えたいと思います。

[山崎委員]

やるときやらないと駄目だと思うんです。良い詩だし、良い曲だと思います。時間が掛かるとはありますが、ぜひやってください。

[町長]

その他ございませんか。

[構成員]

「ありません」という声あり。

[町長]

よろしいでしょうか。

[構成員]

「はい」という声あり。

5 閉会（田畑学校教育課課長補佐）